

平成12年度埋蔵文化財
発掘調査報告書

2001

新潟市教育委員会
新潟市

例　言

- 1 本書は平成12（2000）年度に新潟市（以下「市」）内で実施した発掘調査の報告書である。ただし、Ⅱ章でふれる松山遺跡範囲確認調査については平成11（1999）年度に実施したものであるが、編集の都合上本書に収録することとなつた。
- 2 調査は国庫及び県費の補助金交付を受けて、市教育委員会（以下「市教委」）が主体となり市埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」）が主管した。
- 3 調査で得た資料は、埋文センターが保管している。
- 4 引用・参考文献は巻末に掲げた。
- 5 本書の内容については各調査担当が協議し、執筆は廣野が担当した。
- 6 本書に掲載されている図版は、埋文センター臨時職員の協力を得て、廣野が作成した。
- 7 本書に掲載されている写真は、各調査の担当者及び調査員が撮影した。
- 8 本書で面積について記載した部分では、0.1m未満を四捨五入して表示している。従って、新潟県教育委員会（以下「県教委」）等に報告した数値とは一致しないものもある。
- 9 調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関から御指導・御協力をいただいた。

目　次

I 平成12（2000）年度　市内遺跡発掘調査等の概要	1
II 松山遺跡範囲確認調査	4
III 明調高校移転予定地試掘調査	6
IV 東園遺跡発掘調査	10
V 卸売市場建設予定地試掘調査	12
VI 赤塚神明社遺跡範囲確認調査	14
VII 猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査	16
VIII 丸山遺跡範囲確認調査	18
IX 海老ヶ瀬地区試掘調査	20
X 清水が丘遺跡範囲確認調査	22
XI 潟池遺跡範囲確認調査	24
XII 姥ヶ山地区試掘調査	26
XIII 内野西土地区画整理事業関連試掘・確認調査	28
引用・参考文献	33
報告書抄録	34

I 平成12（2000）年度 市内遺跡発掘調査等の概要

1 調査体制

事務分掌 昨年度に引き続き、埋蔵文化財保護に係る業務全般（開発事業に係る遺跡の扱いについての協議、試掘・確認調査、工事立会い、本格調査とそれに伴う出土遺物の整理作業と報告書作成、公開・普及活動等）については埋文センターで担当した。ただし、遺跡に係る各種照会については、利用者の便宜を考慮し、市総務局国際文化部歴史文化課（以下「歴文課」）企画・文化財係に窓口をおいた。

平成12（2000）年度の調査体制については以下のとおり。

調査主体 市教委（教育長 石崎海夫） 市が補助執行（担当 歴文課及び埋文センター）

事務 値種照会への対応 歴文課企画・文化財係（係長 勝本紀夫）

調査関係 埋文センター（所長 繩川 力）

調査員 廣野耕造・諫山えりか・朝岡政康（以上埋文センター主事）

2 市内遺跡調査の概要（図1及び表1・2参照）

調査件数 今年度の遺跡関連の調査としては、本格調査1件、試掘・確認調査10件、立会い調査4件の計15件を実施した。このうち、本格調査と試掘・確認調査についてII章以下で述べる。なお、市は平成13（2001）年1月1日をもって新潟県西蒲原郡黒埼町と合併したが、合併以前に黒埼町教育委員会が行った各種調査については本書ではふれていない。

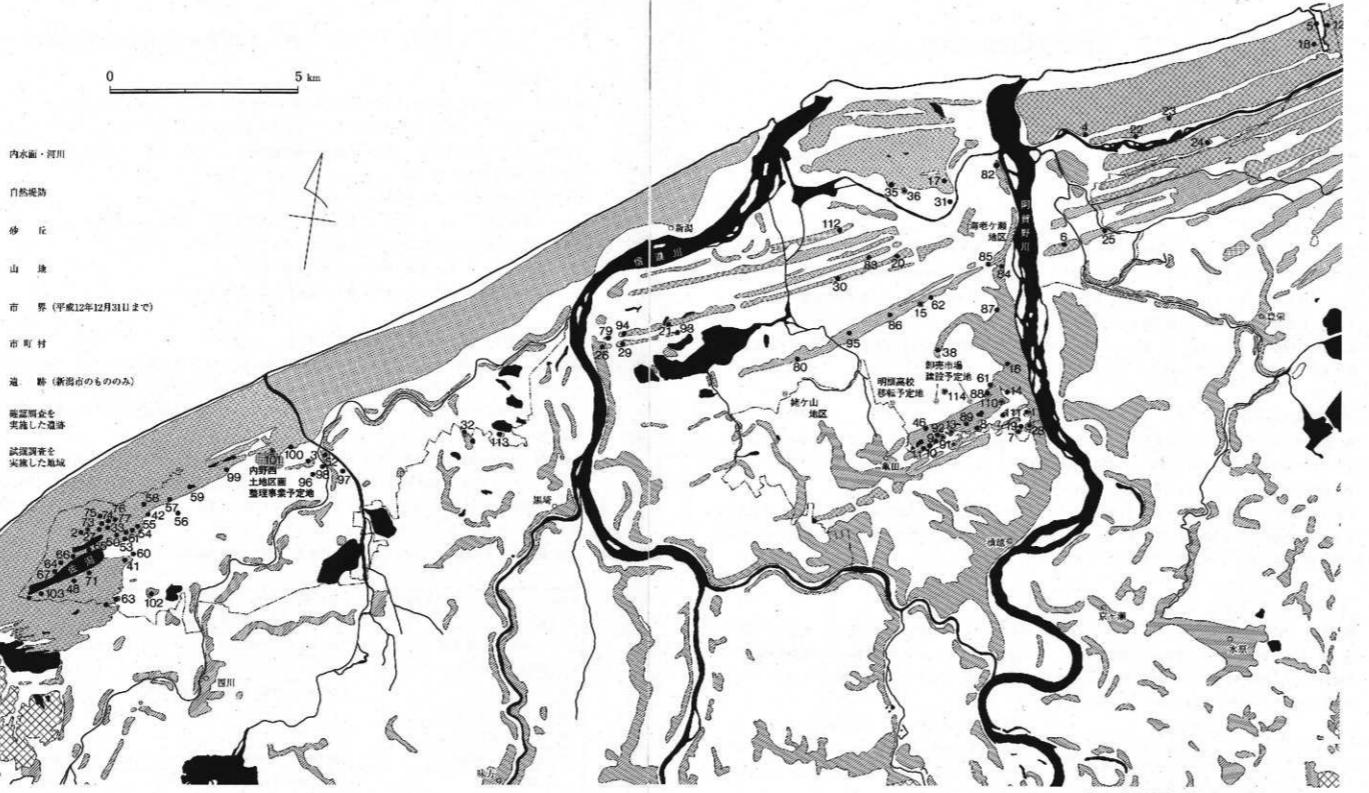
本格調査 東園遺跡の発掘調査を実施した。平成12（2000）年度は発掘調査のうち現場作業を完了し、平成13（2001）年度と平成14（2002）年度に整理作業を実施、整理作業の最終年度に正式な報告書を刊行予定である。

試掘・確認調査 例年に比べ原因事業の予定面積が大きいものが多くあった。いずれの調査においても開発事業の大枠を見直しを必要とするような結果は得られなかった。

立会い調査 下水道建設等に伴い工事立会いを実施したが、遺跡の破壊はみられなかった。

記載	遺跡名等（新潟市遺跡番号）	調査の種類	原 因	調査期間	調査結果・取り扱い
II章	松山遺跡(110)	確認調査	個人住宅建設	H12.3/17	遺構・遺物検出されず、慎重工事
-	木山遺跡(42)・芙蓉遺跡(57)・尼池遺跡(59)	立会い調査	下水道建設	4/6-4/16-5/18-5/24	遺跡の破壊は認められない
III章	明訓高校移転予定地(-)	試掘調査	学校建築	4/17~20-24~27	遺跡とは認められない
IV章	東園遺跡(114)	本格調査	市道建設	4/25~12/22	本文参照
V章	鉢光市場建設予定地(-)	試掘調査	市場建設	6/13~15	遺跡とは認められない
VI章	赤坂神社遺跡(27)	確認調査	冷蔵倉庫建設	6/15	遺構・遺物検出されず
VII章	猪ヶ馬場A遺跡(15)	確認調査	事務所建設	6/22	遺構・遺物検出されず、慎重工事
-	大潤遺跡(16)	立会い調査	ガス配達施設建設	6/26~8/1	遺跡に影響なし
VIII章	丸山遺跡(13)	確認調査	個人住宅建設	7/6	遺構・遺物検出されず
IX章	海老ヶ瀬地区(-)	試掘調査	自転車学校建設	8/8~9	遺跡とは認められない
X章	清水が丘遺跡(91)	確認調査	個人住宅建設	8/23	遺構・遺物検出されず、慎重工事
XI章	溜池遺跡(36)	確認調査	店舗建設	8/24~30	遺跡に影響なく、慎重工事
XII章	越ヶ山地区(-)	試掘調査	店舗建設	10/25~11/2	遺跡とは認められない
-	岡山の石仏(109)	立会い調査	住宅建設	10/27	遺跡に影響なし
-	高山遺跡(52)	立会い調査	下水道建設	H13.1/26	遺跡に影響なし
XIII章	内野潟堆B遺跡(101)	確認調査等	土地区画整理	2/21~23-26	遺構・遺物検出されず

表1 平成12（2000）年度 市内遺跡調査一覧（実施順）



路線名	起 点	終 点
1 中 舟 沢 大 通 一 丁 目	中 舟 沢 大 通 一 丁 目	中 舟 沢 大 通 一 丁 目
2 東 二 丁 目	東 二 丁 目	東 二 丁 目
3 三 丁 目	三 丁 目	三 丁 目
4 四 丁 目	四 丁 目	四 丁 目
5 五 丁 目	五 丁 目	五 丁 目
6 六 丁 目	六 丁 目	六 丁 目
7 七 丁 目	七 丁 目	七 丁 目
8 八 丁 目	八 丁 目	八 丁 目
9 九 丁 目	九 丁 目	九 丁 目
10 十 丁 目	十 丁 目	十 丁 目
11 十 一 丁 目	十一 丁 目	十一 丁 目
12 十 二 丁 目	十二 丁 目	十二 丁 目
13 十 三 丁 目	十三 丁 目	十三 丁 目
14 十 五 丁 目	十五 丁 目	十五 丁 目
15 十 六 丁 目	十六 丁 目	十六 丁 目
16 十 七 丁 目	十七 丁 目	十七 丁 目
17 十 八 丁 目	十八 丁 目	十八 丁 目
18 十 九 丁 目	十九 丁 目	十九 丁 目
19 二十 丁 目	二十 丁 目	二十 丁 目
20 二十一 丁 目	二十一 丁 目	二十一 丁 目
21 二十二 丁 目	二十二 丁 目	二十二 丁 目
22 二十三 丁 目	二十三 丁 目	二十三 丁 目
23 二十四 丁 目	二十四 丁 目	二十四 丁 目
24 二十五 丁 目	二十五 丁 目	二十五 丁 目
25 二十六 丁 目	二十六 丁 目	二十六 丁 目
26 二十七 丁 目	二十七 丁 目	二十七 丁 目
27 二十八 丁 目	二十八 丁 目	二十八 丁 目
28 二十九 丁 目	二十九 丁 目	二十九 丁 目
29 三十 丁 目	三十 丁 目	三十 丁 目
30 三十一 丁 目	三十一 丁 目	三十一 丁 目
31 三十二 丁 目	三十二 丁 目	三十二 丁 目
32 三十三 丁 目	三十三 丁 目	三十三 丁 目
33 三十四 丁 目	三十四 丁 目	三十四 丁 目
34 三十五 丁 目	三十五 丁 目	三十五 丁 目
35 三十六 丁 目	三十六 丁 目	三十六 丁 目
36 三十七 丁 目	三十七 丁 目	三十七 丁 目
37 三十八 丁 目	三十八 丁 目	三十八 丁 目
38 三十九 丁 目	三十九 丁 目	三十九 丁 目
39 四十 丁 目	四十 丁 目	四十 丁 目
40 四十一 丁 目	四十一 丁 目	四十一 丁 目
41 四十二 丁 目	四十二 丁 目	四十二 丁 目
42 四十三 丁 目	四十三 丁 目	四十三 丁 目
43 四十四 丁 目	四十四 丁 目	四十四 丁 目
44 四十五 丁 目	四十五 丁 目	四十五 丁 目
45 四十六 丁 目	四十六 丁 目	四十六 丁 目
46 四十七 丁 目	四十七 丁 目	四十七 丁 目
47 四十八 丁 目	四十八 丁 目	四十八 丁 目
48 四十九 丁 目	四十九 丁 目	四十九 丁 目
49 五十 丁 目	五十 丁 目	五十 丁 目
50 五十一 丁 目	五十一 丁 目	五十一 丁 目
51 五十二 丁 目	五十二 丁 目	五十二 丁 目
52 五十三 丁 目	五十三 丁 目	五十三 丁 目
53 五十四 丁 目	五十四 丁 目	五十四 丁 目
54 五十五 丁 目	五十五 丁 目	五十五 丁 目
55 五十六 丁 目	五十六 丁 目	五十六 丁 目
56 五十七 丁 目	五十七 丁 目	五十七 丁 目
57 五十八 丁 目	五十八 丁 目	五十八 丁 目
58 五十九 丁 目	五十九 丁 目	五十九 丁 目
59 六十 丁 目	六十 丁 目	六十 丁 目
60 六十一 丁 目	六十一 丁 目	六十一 丁 目
61 六十二 丁 目	六十二 丁 目	六十二 丁 目
62 六十三 丁 目	六十三 丁 目	六十三 丁 目
63 六十四 丁 目	六十四 丁 目	六十四 丁 目
64 六十五 丁 目	六十五 丁 目	六十五 丁 目
65 六十六 丁 目	六十六 丁 目	六十六 丁 目
66 六十七 丁 目	六十七 丁 目	六十七 丁 目
67 六十八 丁 目	六十八 丁 目	六十八 丁 目
68 六十九 丁 目	六十九 丁 目	六十九 丁 目
69 七十 丁 目	七十 丁 目	七十 丁 目
70 七十 丁 目	七十 丁 目	七十 丁 目
71 七十一 丁 目	七十一 丁 目	七十一 丁 目
72 七十二 丁 目	七十二 丁 目	七十二 丁 目
73 七十三 丁 目	七十三 丁 目	七十三 丁 目
74 七十四 丁 目	七十四 丁 目	七十四 丁 目
75 七十五 丁 目	七十五 丁 目	七十五 丁 目
76 七十六 丁 目	七十六 丁 目	七十六 丁 目
77 七十七 丁 目	七十七 丁 目	七十七 丁 目
78 七十八 丁 目	七十八 丁 目	七十八 丁 目
79 七十九 丁 目	七十九 丁 目	七十九 丁 目
80 八十 丁 目	八十 丁 目	八十 丁 目
81 八十一 丁 目	八十一 丁 目	八十一 丁 目
82 八十二 丁 目	八十二 丁 目	八十二 丁 目
83 八十三 丁 目	八十三 丁 目	八十三 丁 目
84 八十四 丁 目	八十四 丁 目	八十四 丁 目
85 八十五 丁 目	八十五 丁 目	八十五 丁 目
86 八十六 丁 目	八十六 丁 目	八十六 丁 目
87 八十七 丁 目	八十七 丁 目	八十七 丁 目
88 八十八 丁 目	八十八 丁 目	八十八 丁 目
89 八十九 丁 目	八十九 丁 目	八十九 丁 目
90 九十 丁 目	九十 丁 目	九十 丁 目
91 九十一 丁 目	九十一 丁 目	九十一 丁 目
92 九十二 丁 目	九十二 丁 目	九十二 丁 目
93 九十三 丁 目	九十三 丁 目	九十三 丁 目
94 九十四 丁 目	九十四 丁 目	九十四 丁 目
95 九十五 丁 目	九十五 丁 目	九十五 丁 目
96 九十六 丁 目	九十六 丁 目	九十六 丁 目
97 九十七 丁 目	九十七 丁 目	九十七 丁 目
98 九十八 丁 目	九十八 丁 目	九十八 丁 目
99 九十九 丁 目	九十九 丁 目	九十九 丁 目
100 一百 丁 目	一百 丁 目	一百 丁 目
101 一百 一 丁 目	一百 一 丁 目	一百 一 丁 目
102 一百 二 丁 目	一百 二 丁 目	一百 二 丁 目
103 一百 三 丁 目	一百 三 丁 目	一百 三 丁 目
104 一百 四 丁 目	一百 四 丁 目	一百 四 丁 目
105 一百 五 丁 目	一百 五 丁 目	一百 五 丁 目
106 一百 六 丁 目	一百 六 丁 目	一百 六 丁 目
107 一百 七 丁 目	一百 七 丁 目	一百 七 丁 目
108 一百 八 丁 目	一百 八 丁 目	一百 八 丁 目
109 一百 九 丁 目	一百 九 丁 目	一百 九 丁 目
110 一百 十 丁 目	一百 十 丁 目	一百 十 丁 目
111 一百 十一 丁 目	一百 十一 丁 目	一百 十一 丁 目
112 一百 十二 丁 目	一百 十二 丁 目	一百 十二 丁 目
113 一百 十三 丁 目	一百 十三 丁 目	一百 十三 丁 目
114 一百 十四 丁 目	一百 十四 丁 目	一百 十四 丁 目
115 一百 十五 丁 目	一百 十五 丁 目	一百 十五 丁 目
116 一百 十六 丁 目	一百 十六 丁 目	一百 十六 丁 目
117 一百 十七 丁 目	一百 十七 丁 目	一百 十七 丁 目
118 一百 十八 丁 目	一百 十八 丁 目	一百 十八 丁 目
119 一百 十九 丁 目	一百 十九 丁 目	一百 十九 丁 目
120 一百 二十 丁 目	一百 二十 丁 目	一百 二十 丁 目
121 一百 二十一 丁 目	一百 二十一 丁 目	一百 二十一 丁 目
122 一百 二十二 丁 目	一百 二十二 丁 目	一百 二十二 丁 目
123 一百 二十三 丁 目	一百 二十三 丁 目	一百 二十三 丁 目
124 一百 二十四 丁 目	一百 二十四 丁 目	一百 二十四 丁 目
125 一百 二十五 丁 目	一百 二十五 丁 目	一百 二十五 丁 目
126 一百 二十六 丁 目	一百 二十六 丁 目	一百 二十六 丁 目
127 一百 二十七 丁 目	一百 二十七 丁 目	一百 二十七 丁 目
128 一百 二十八 丁 目	一百 二十八 丁 目	一百 二十八 丁 目
129 一百 二十九 丁 目	一百 二十九 丁 目	一百 二十九 丁 目
130 一百 三十 丁 目	一百 三十 丁 目	一百 三十 丁 目
131 一百 三十一 丁 目	一百 三十一 丁 目	一百 三十一 丁 目
132 一百 三十二 丁 目	一百 三十二 丁 目	一百 三十二 丁 目
133 一百 三十三 丁 目	一百 三十三 丁 目	一百 三十三 丁 目
134 一百 三十四 丁 目	一百 三十四 丁 目	一百 三十四 丁 目
135 一百 三十五 丁 目	一百 三十五 丁 目	一百 三十五 丁 目
136 一百 三十六 丁 目	一百 三十六 丁 目	一百 三十六 丁 目
137 一百 三十七 丁 目	一百 三十七 丁 目	一百 三十七 丁 目
138 一百 三十八 丁 目	一百 三十八 丁 目	一百 三十八 丁 目
139 一百 三十九 丁 目	一百 三十九 丁 目	一百 三十九 丁 目
140 一百 四十 丁 目	一百 四十 丁 目	一百 四十 丁 目
141 一百 四十一 丁 目	一百 四十一 丁 目	一百 四十一 丁 目
142 一百 四十二 丁 目	一百 四十二 丁 目	一百 四十二 丁 目
143 一百 四十三 丁 目	一百 四十三 丁 目	一百 四十三 丁 目
144 一百 四十四 丁 目	一百 四十四 丁 目	一百 四十四 丁 目
145 一百 四十五 丁 目	一百 四十五 丁 目	一百 四十五 丁 目
146 一百 四十六 丁 目	一百 四十六 丁 目	一百 四十六 丁 目
147 一百 四十七 丁 目	一百 四十七 丁 目	一百 四十七 丁 目
148 一百 四十八 丁 目	一百 四十八 丁 目	一百 四十八 丁 目
149 一百 四十九 丁 目	一百 四十九 丁 目	一百 四十九 丁 目
150 一百 五十 丁 目	一百 五十 丁 目	一百 五十 丁 目
151 一百 五十一 丁 目	一百 五十一 丁 目	一百 五十一 丁 目
152 一百 五十二 丁 目	一百 五十二 丁 目	一百 五十二 丁 目
153 一百 五十三 丁 目	一百 五十三 丁 目	一百 五十三 丁 目
154 一百 五十四 丁 目	一百 五十四 丁 目	一百 五十四 丁 目
155 一百 五十五 丁 目	一百 五十五 丁 目	一百 五十五 丁 目
156 一百 五十六 丁 目	一百 五十六 丁 目	一百 五十六 丁 目
157 一百 五十七 丁 目	一百 五十七 丁 目	一百 五十七 丁 目
158 一百 五十八 丁 目	一百 五十八 丁 目	一百 五十八 丁 目
159 一百 五十九 丁 目	一百 五十九 丁 目	一百 五十九 丁 目
160 一百 六十 丁 目	一百 六十 丁 目	一百 六十 丁 目
161 一百 六十一 丁 目	一百 六十一 丁 目	一百 六十一 丁 目
162 一百 六十二 丁 目	一百 六十二 丁 目	一百 六十二 丁 目
163 一百 六十三 丁 目	一百 六十三 丁 目	一百 六十三 丁 目
164 一百 六十四 丁 目	一百 六十四 丁 目	一百 六十四 丁 目
165 一百 六十五 丁 目	一百 六十五 丁 目	一百 六十五 丁 目
166 一百 六十六 丁 目	一百 六十六 丁 目	一百 六十六 丁 目
167 一百 六十七 丁 目	一百 六十七 丁 目	一百 六十七 丁 目
168 一百 六十八 丁 目	一百 六十八 丁 目	一百 六十八 丁 目
169 一百 六十九 丁 目	一百 六十九 丁 目	一百 六十九 丁 目
170 一百 七十 丁 目	一百 七十 丁 目	一百 七十 丁 目
171 一百 七十 丁 目	一百 七十 丁 目	一百 七十 丁 目
172 一百 七十一 丁 目	一百 七十一 丁 目	一百 七十一 丁 目
173 一百 七十二 丁 目	一百 七十二 丁 目	一百 七十二 丁 目
174 一百 七十三 丁 目	一百 七十三 丁 目	一百 七十三 丁 目
175 一百 七十四 丁 目	一百 七十四 丁 目	一百 七十四 丁 目
176 一百 七十五 丁 目	一百 七十五 丁 目	一百 七十五 丁 目
177 一百 七十六 丁 目	一百 七十六 丁 目	一百 七十六 丁 目
178 一百 七十七 丁 目	一百 七十七 丁 目	一百 七十七 丁 目
179 一百 七十八 丁 目	一百 七十八 丁 目	一百 七十八 丁 目
180 一百 七十九 丁 目	一百 七十九 丁 目	一百 七十九 丁 目
181 一百 八十 丁 目	一百 八十 丁 目	一百 八十 丁 目
182 一百 八十一 丁 目	一百 八十一 丁 目	一百 八十一 丁 目
183 一百 八十二 丁 目	一百 八十二 丁 目	一百 八十二 丁 目
184 一百 八十三 丁 目	一百 八十三 丁 目	一百 八十三 丁 目
185 一百 八十四 丁 目	一百 八十四 丁 目	一百 八十四 丁 目
186 一百 八十五 丁 目	一百 八十五 丁 目	一百 八十五 丁 目
187 一百 八十六 丁 目	一百 八十六 丁 目	一百 八十六 丁 目
188 一百 八十七 丁 目	一百 八十七 丁 目	一百 八十七 丁 目
189 一百 八十八 丁 目	一百 八十八 丁 目	一百 八十八 丁 目
190 一百 八十九 丁 目	一百 八十九 丁 目	一百 八十九 丁 目
191 一百 九十 丁 目	一百 九十 丁 目	一百 九十 丁 目
192 一百 九十一 丁 目	一百 九十一 丁 目	一百 九十一 丁 目
193 一百 九十二 丁 目	一百 九十二 丁 目	一百 九十二 丁 目
194 一百 九十三 丁 目	一百 九十三 丁 目	一百 九十三 丁 目
195 一百 九十四 丁 目	一百 九十四 丁 目	一百 九十四 丁 目
196 一百 九十五 丁 目	一百 九十五 丁 目	一百 九十五 丁 目
197 一百 九十六 丁 目	一百 九十六 丁 目	一百 九十六 丁 目
198 一百 九十七 丁 目	一百 九十七 丁 目	一百 九十七 丁 目
199 一百 九十八 丁 目	一百 九十八 丁 目	一百 九十八 丁 目
200 一百 九十九 丁 目	一百 九十九 丁 目	一百 九十九 丁 目

表2 新潟市の道路 (平成12年12月31日現在)

II 松山遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市松山字道下1571-4ほか

調査期間：平成12年3月17日(金)

調査面積：調査対象面積303.2m² 調査面積21.6m² (調査対象面積の約4.3%)

調査担当：廣野耕造

1 遺跡の概要

立地ほか 松山遺跡は龟田砂丘（阿賀野川以東の新砂丘T-3列に対比される）後列の頂部付近に立地している。遺跡周辺から中近世の遺物が採集されることは從前から知られており（新潟市合併町村史編集室1986）、酒井和男氏によって中近世の採集資料が報告されている（酒井・坂井ほか1987）。畠山佑二氏のコレクション（豊栄市博物館所蔵）中の縄文土器は、松山遺跡のものである可能性がある（関岡1988）。

主な既往の調査 平成10（1998）年、個人住宅建設に伴う立会い調査を別地点で2回実施しているが、いずれも遺跡の範囲外と判断されている（朝岡1999）。

2 調査に至る経緯

協議 個人住宅建設に係る照会があり、これに対して市は当該地が松山遺跡から100m以内にあり、地形的にも連続しているため隣接地と判断、法57条の2に係る届出の提出を依頼した。また、事業者側からも埋蔵文化財の所在状況の調査依頼が市教委に提出されている（平成12年3月16日付け）。

届出など 事業者より発掘届が提出され（平成12年3月3日付付け）、それに対して遺跡の範囲が不明確なので確認調査を実施せよとの通知が県教委から市教委にあった（平成12年3月9日付け）ため、市教委は法58条の2にかかる発掘調査の報告を県教委に送付（平成12年3月16日付け）、調査に着手した。

3 調査の経過

調査方法 住宅建設に支障を来さないため、建物の基礎部分にかからないように試掘坑を2本設定した（図3）。試掘坑1Tは0.5m×5.3m、2Tは0.5m×4.7mである。調査地が狭いため、小型のバックホー（0.1m³級）を用いて一回に10~20cmずつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が出るまで、または現地表面下15mとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。



図2 調査地周辺図 (S=1/3,000)

調査結果 土層については、確認できた最下底の黒褐色土の上に、各種の砂質土が堆積するという状況であった（図4）。砂質土はしまりがなく、後世に盛られたものである可能性がある。

遺物は砂質土中から中近世陶器が2点出土した。遺構は一切検出されなかった。

調査後の措置 松山遺跡は中世の遺跡として周知化されているが、今回の調査では該当するものが検出されなかったため、当該地は遺跡の範囲外であるとの判断を、市教委から県教委に報告した（平成12年3月21日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては慎重に実施するよう、書面で通知された（平成12年5月1日付け）。

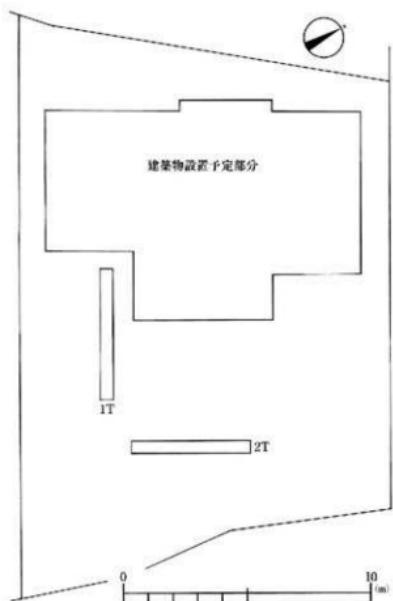


図4 土層柱状図 (深度方向のみ $S=1/20$)

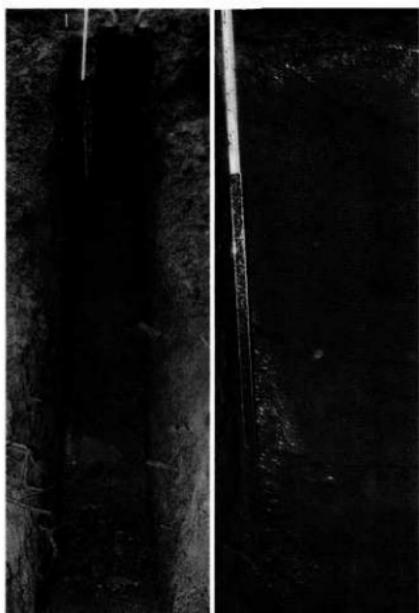
図3 試掘坑配置図 ($S=1/200$)



調査地遠景 (南東から)



調査地全景 (南東から)



2T 調査終了状況

2T 土層堆積状況

III 明訓高校移転予定地試掘調査

調査地：新潟市北山字堀東1037-2ほか

調査期間：4月17日㈪～20日㈬・24日㈪～27日㈭

調査面積：調査対象面積80,303.0m² 調査面積550.0m²（調査対象面積の約0.7%）

調査担当：廣野耕造

1 調査地の概要

立地ほか 調査地は市の海岸線から内陸へ約8km入ったところに立地している。多くの遺跡が集中することで知られる亀田砂丘（新砂丘Ⅰ）から北西に約0.8km、新砂丘ⅠとⅡとの間に位置し、平成11（1999）年に新発見された東囲遺跡からは西へ約2km離れている。現況は水田で、現地表面の標高は最も低いところで約-0.8mを測る。周知の遺跡は存在しないが、立地から見て未発見の遺跡が地下深く埋没している可能性もあると考えられた。

2 調査に至る経緯

協議 現在新潟市川岸町に所在する学校法人新潟明訓高等学校（以下「明訓高」）は、平成14（2002）年度を期して同市内北山に移転することになった。そこで明訓高と市とで移転予定地（以下「予定地」）内の埋蔵文化財の所在とその取り扱い等について平成11（1999）年度中より協議した結果、予定地が広大なこともあります、万一未発見の遺跡が存在した場合、事業の進展に重大な影響を与えることが予想されたため、事前に試掘調査を行って遺跡の有無を確認することで合意した。

届出など 明訓高理事長からの調査依頼書（平成12年4月3日付け）を受け、市教委は県教委に法第58条の2に基づく発掘調査の通知を提出（平成12年4月11日付け）し、試掘調査を実施することとなった。

3 調査の経過

調査方法 調査対象面積がかなり広いため、開発予定や地形を勘案して、試掘坑の設定に粗密のメリハリをつけ、調査の効率化を図った。特に、遺跡が発見された場合に問題となりそうな建物部分については密に試掘坑を設定した（図6）。試掘坑の掘削は地元土木業者に委託し、調査補助のための作業員として地元有志4名を新潟市臨時職員として雇用した。掘削にあたっては0.4m級のバックホーを使用し、一回に10～20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。壁面が崩落する危険を避けるため、掘り下げ深度は基盤層が露出するまで、ないし地表面から2mまでを限度とした。掘り下げ終了後、人力での精査を実施、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 調査地の土層堆積状況は、黒色砂層（IV層）を基盤とし、その上に粘土層（Ⅱ～V層）、表土・耕作土が堆積するという形であった（図7）。現地表面から基盤砂層までは浅いところ（調査範囲の南端部付近）でも1.6m以上あり、ほとんどの試掘坑では基盤層まで到達でき



図5 調査地周辺図 (S=1/10,000)

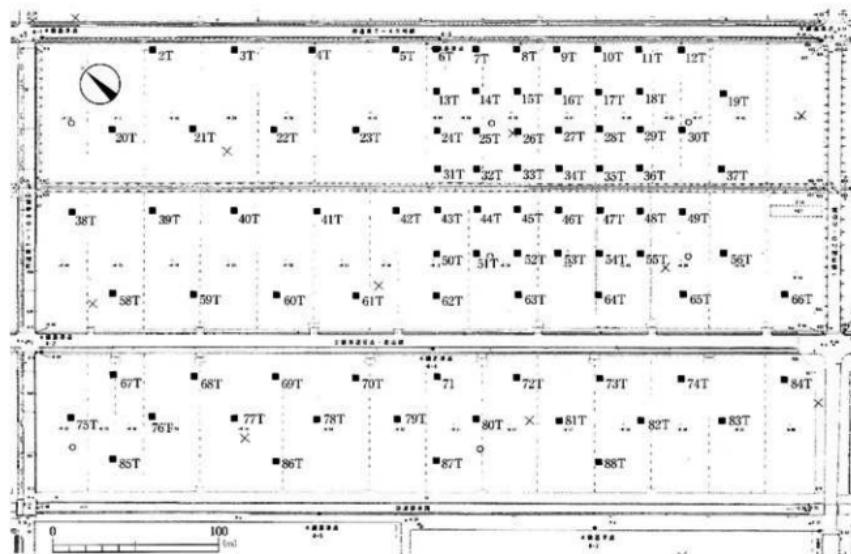


図6 試掘坑配置図 ($S=1/3,000$)

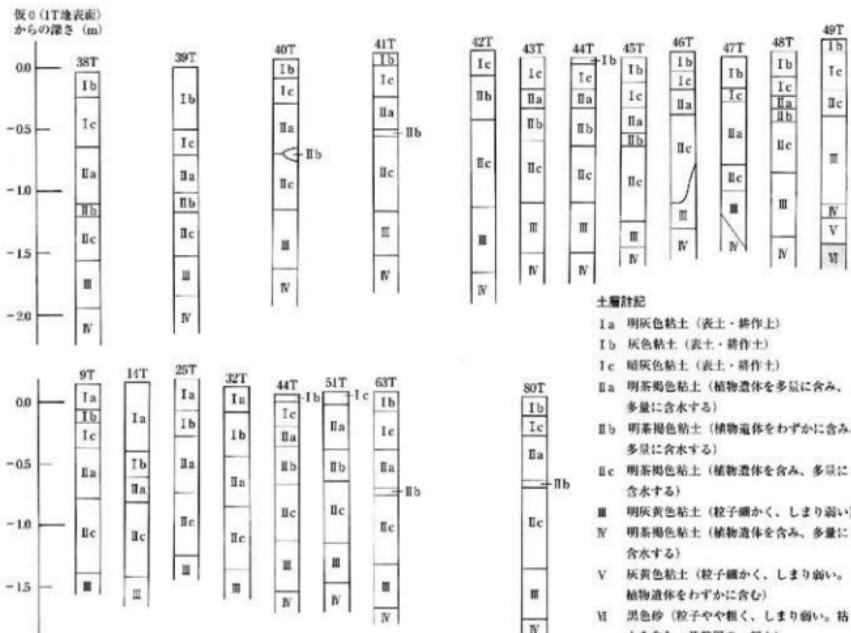


図7 土層柱状図 (上段：北西～南東方向、下段：北東～南西方向 深度方向は $S=1/40$ 、水平方向は $S=1/2,000$)

なかった。

遺構は一切検出されなかった。遺物については、試掘坑13TのIb層から土器（縄文土器と推定されるが遺存状態不良で詳細は不明）の小片、また試掘坑30TのIb層から漆器碗が出土している。いずれも表土・耕作土中であるため原位置を保っているとは考えられない。

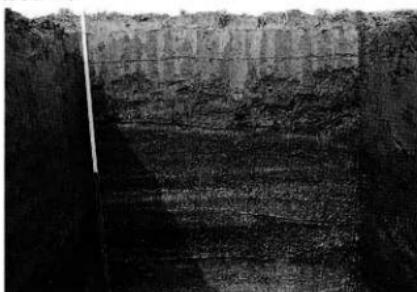
調査後の措置 事实上全ての試掘坑で遺構・遺物は検出されず、今回の調査範囲に関して遺跡の存在は想定できないとの所見を、市教委から県教委に報告した（平成12年5月10日付け）。



調査地全景（北西から）



38T 調査終了状況



38T 土層堆積状況

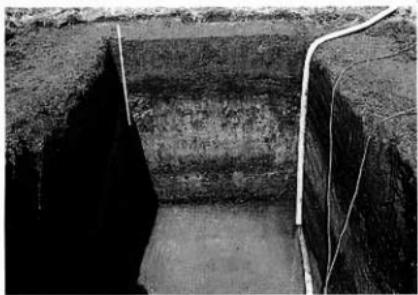


44T 調査終了状況

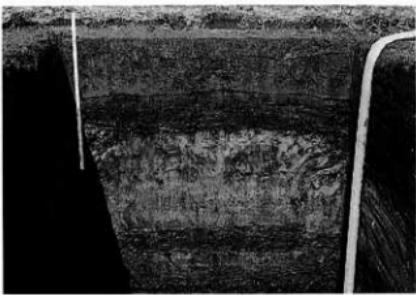


44T 土層堆積状況

明訓高校移転予定地試掘調査写真(1)



49T 調査終了状況



49T 土層堆積状況



14T 調査終了状況



14T 土層堆積状況



80T 調査終了状況



80T 土層堆積状況



30T 遺物（漆器椀）出土状況①

明訓高校移転予定地試掘調査写真(2)



30T 遺物（漆器椀）出土状況②

IV 東開遺跡発掘調査

調査地：新潟市若荷谷地内

調査期間：4月25日㈬～12月22日(金) 155時間

調査面積：8,875.0m² (遺跡推定面積の約22.0%)

調査担当：朝岡政康

調査員：廣野耕造（6月21日まで）・諫山えりか（6月22日より）

1 遺跡の概要

立地ほか 東開遺跡は、新潟市市場整備事業（担当：市産業経済局農林水産部市場整備推進課）に先立ち、平成11（1999）年6月に埋文センターが実施した試掘調査で新発見された遺跡である（平成11年11月26日付けで県教委に通知）。新砂丘Ⅱ（石山砂丘）とⅠ（亀田砂丘）の間に立地し、古墳時代の遺構確認面の絶対高は-0.8mから-0.4mである。当該地の基盤層は砂であるが、砂丘上に立地する遺跡と考えてよいから今後検討を要する。

主な既往の調査 試掘調査によって遺跡が発見された後、引き続いて実施した範囲確認調査により、遺跡面積は約40,000m²と推定された。出土遺物は古墳時代前期に属する土師器等が中心で、わずかに時期不明の縄文土器もみられた。遺構としては堅穴住居跡1基その他が検出されている。なお、試掘・確認調査の概要については既に報告済みである（朝岡2000）。

2 調査に至る経緯

協議 遺跡発見を受け、歴文課と埋文センター及び市場整備推進課の3者は、県教委の助言を得ながら、遺跡保護について再三にわたり協議した。その結果、遺跡が市場本体にかかる部分については地下に影響を与える構造物の設置を避け、盛土によって遺跡を現況のまま保存することとなった。しかし、遺跡のはば中央部分を縱断するかたちで計画されている市道（都市計画道路東8-273号線）は都市計画法に基づくものであるため、法線の変更は事实上不可能であった。従って、これにかかる部分については平成12（2000）年度、工事に先だって本格調査を実施し、調査記録を残すこととした。調査地の位置については12、13頁の図9、10を参考のこと。調査費用については原因者である新潟市が負担するべく市道建設担当課（市都市整備局土木部土木建設課）の予算として計上し、発掘調査を担当する埋文センターに執行委任することとなった。

届出など 市教委は文化財保護法（以下「法」）第57条の3に係る埋蔵文化財発掘通知及び法第58条の2に係る埋蔵文化財発掘調査報告書を県教委に提出した（いずれも平成12年6月5日付け）。

その後、12月22日に発掘調査の現場作業が終了したので、市教委は発掘調査の終了報告を県教委に提出した（平成13年1月18日付け）。また、出土遺物に関しては法第59条第2項により準用する第59条第1項に係る遺物発見通知を新潟県警南警察署長に提出（平成13年1月22日付け）、平成13年1月24日付けで受理されている。

3 調査の経過

調査方法 市道の形状に合わせて25.0m×355.0mの調査区とし、100m大大グリッド・10m大グリッド・2m小グリッドを基本に、国家座標を用いて調査区内の位置を明示した。詳細は正式報告でふれることとする。

調査結果 遺構は、古墳時代前期に属する堅穴住居が2、掘立柱建物が2、土坑が12、ピットが200以上、その他性格不明の遺構が40、それぞれ検出されている（図8）。遺物は、少量の縄文土器・弥生土器の他は、古墳時代前期の土師器、木製品、鉄滓、石製品、黒色化した大量の米、種実類が出土している。

その他 平成12年度、歴文課の事業として計画された「歴史文化ふれあい事業」による「にいがた歴史塾」の一環として、埋文センターでは東開遺跡発掘調査期間中に現地説明会を2回開催した。内容は以下のとおりである。

第1回（8月4日） 出土遺物・写真パネルの展示、遺物水洗作業の体験、稼働中の発掘調査現場公開

参加者約150名

第2回（11月11日） 出土遺物・写真パネルの展示、遺構の公開

参加者約160名

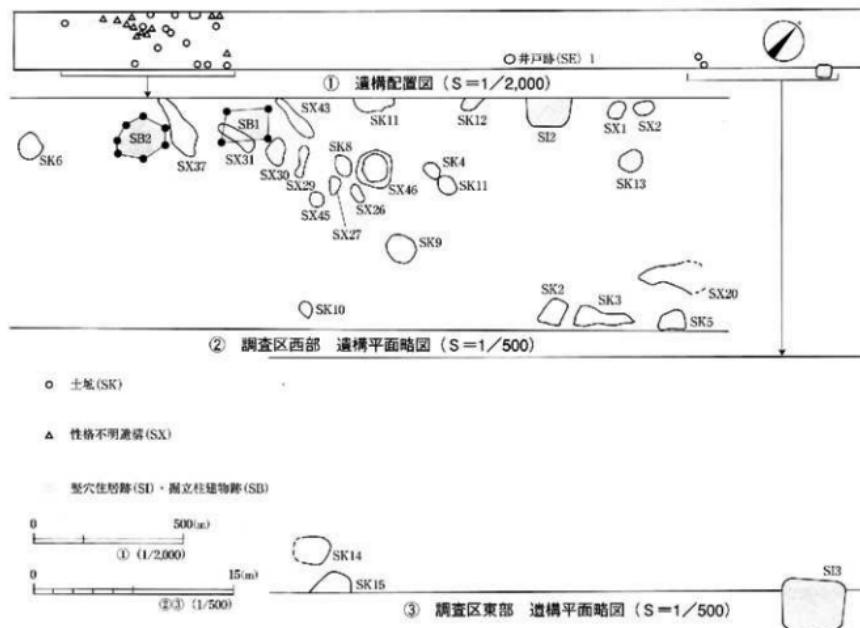
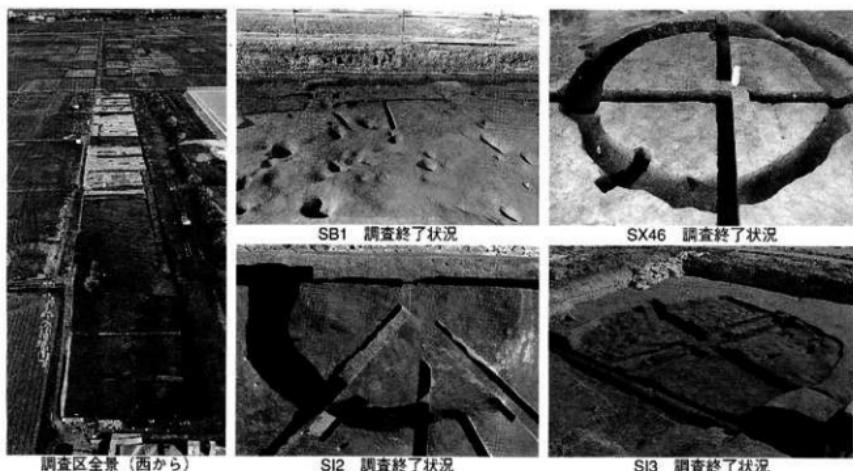


図8 東面遺跡 遺構平面図(概略)



V 卸売市場建設予定地試掘調査

調査地：新潟市丸山の内善之糸組字浦郷673-2・同634、西山字荒田830ほか

調査期間：6月13日㈫～15日㈬

調査面積：調査対象面積44,000.0m² 調査面積68.0m²（調査対象面積の約0.2%）

調査担当：廣野耕造

1 調査地の概要

立地ほか 調査地は2つの部分に分かれている。1つは卸売市場建設予定地で、若狭谷の集落が立地する新砂丘Ⅰ北側に隣接している。東開道跡推定範囲の南端部から南東方向へ約200m離れている。もう1つは市道建設予定地であり、東開道跡推定範囲西端部から南西方向へ約250m離れている。いずれも地形条件については東開道跡と同様である。

2 調査に至る経緯

協議 II章でもふれたとおり、新卸売市場建設予定地については大部分を平成11（1999）年度中に試掘及び確認調査済であったが、同年度中に買収が完了しない部分については平成12（2000）年度に試掘調査を実施することとなっていた。

届出など 市教委は法58条の2に係る発掘調査の通知を県教委に提出（平成12年6月9日付け）し、試掘調査に着手した。

3 調査の経過

調査方法 通常の試掘調査方法にならない、事業実施予定範囲内に50mグリッドを基本として20m×20mの試掘坑を設定した（図10）。各試掘坑は0.4m級バックホーを使用し、一回に10～20cmずつ掘り下げ、造構・遺物の有無の確認に努めた。掘り下げ終了後は土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

調査結果 上層堆積状況は図11のとおりである。基本的には平成11年度の調査による所見と同じであるが、基盤層の絶対高が南側の試掘坑ほど高くなっている。これは新砂丘Ⅰの立ち上がりと考えられる。遺構・遺物は一切検出されなかった。

調査後の措置 試掘調査の結果、当該地に遺跡の存在は確認されなかったため、市場建設工事が着手された。

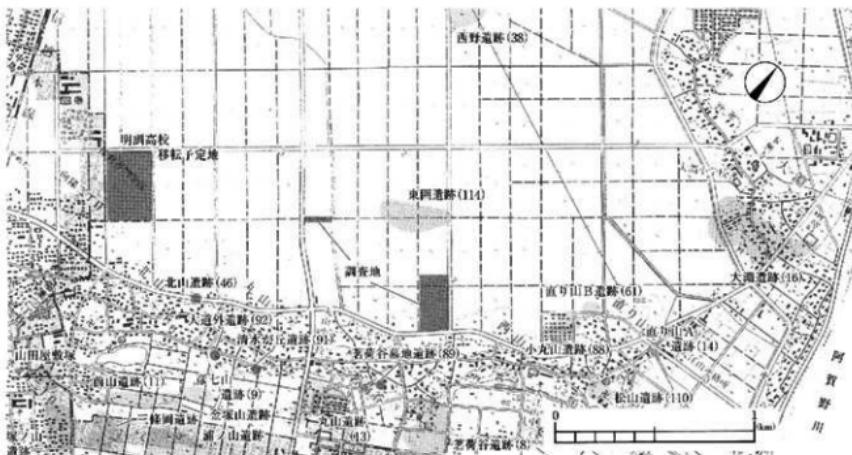


図9 調査地周辺図 (S=1/25,000)



図10 試掘坑配置図 ($S=1/10,000$)



調査地全景（西から）



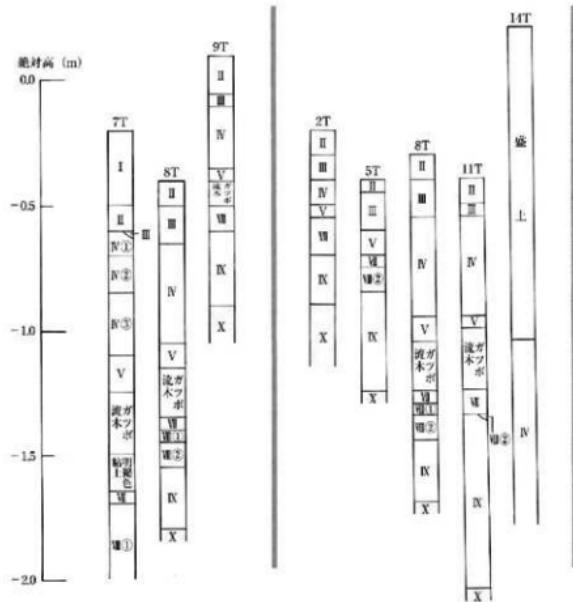
14T 土層堆積状況



16T 土層堆積状況



2T 土層堆積状況



土層記

- I 暗褐色土 (水田耕土)
- II 褐色粘土 (水田耕土)
- III 灰褐色粘土 (腐食植物層) 生木・腐食植物が混じる。いわゆるガフボ
- IV ① 暗褐色粘土 (腐食植物層) 生木・腐食植物が大半を占める。いわゆるガフボ
- IV ② 暗褐色粘土 (V ①層より腐食植物が少ない)
- IV ③ 暗褐色粘土 (V ①層より腐食植物が多い)
- V 灰白色粘土
- VI 黑褐色粘質砂 (古墳時代前期の遺物包含層)
- VII 灰色粘土 (一部で砂が混じる)
- VIII ① 暗褐色粘質砂 (粘土が少量混じる。腐食植物がやや混じる)
- VIII ② オリーブ褐色砂 (V ①層とⅨ層の遷移層)
- IX 黑砂層
- X 黄灰色砂層

図11 土層柱状図 (垂直方向は $S=1/20$ 、水平方向は $S=1/5,000$)

VI 赤塚神明社遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市赤塚字下荒所6022番1

調査期間：6月15日(木)

調査面積：調査対象面積1,094.0m² 調査面積15.0m² (調査対象面積の約1.4%)

調査担当：諫山えりか

1 遺跡の概要

立地はか 赤塚神明社遺跡は市の西方に位置する御手洗渕北岸の砂丘列（新砂丘II-c列）上に立地する。昭和31(1956)年には山崎神明社遺跡という名前で、須恵器が出土することで知られていた（上原1956）。現在、神社の周囲にはコの字形を呈する空堀状の窪地がめぐっている。

主な既往の調査 文獻に現れて以来、神社境内地を中心に分布調査が行われたが、遺物は採集されず遺跡の詳細については不明であった。昭和57(1982)年11月に至り、福祉施設建設に伴う試掘調査が境内地において市教委により実施されたが、遺物・遺構の検出はなく、当該地は遺跡の範囲とは認められなかった。

2 調査に至る経緯

協議 平成12(2000)年6月8日、市都市整備局都市計画部都市開発課より歴文課に対し、市内赤塚字下荒所における漬物工場建設について、遺跡の保護上問題がないか照会があった。建設予定地は赤塚神明社遺跡に近接しており、遺跡が広がっている可能性があったため、埋文センター職員が現地を踏査した。その結果、遺物は採集されなかつたが、地形その他からみて範囲確認調査を実施するのが適当と判断し、事業者に対して法57条の2による届出の提出を依頼した。

届出など 事業者より提出された上記の届出（平成12年6月15日付け）とあわせて、市教委から法58条の2による発掘調査の報告を県教委に提出した（平成12年6月15日付け）。その後、県教委から市教委に対し、当該地において範囲確認調査を実施するようにとの通知があった（平成12年6月28日付け）。

3 調査の経過

調査方法 事業予定地全体をカバーするよう、任意の5ヶ所に1.5m×2.0mの試掘坑を配置した（図13）。各試掘坑は0.25m級バックホーを使用し、一回に10~20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めた。掘り下げ終了後は上層の堆積状況を観察し記録にとどめた。



図12 調査地周辺図 (S=1/5,000)

調査結果 土層堆積状況については図14のとおりである。全ての試掘坑で砂丘基盤層が検出された。その上は暗褐色から明褐色の砂層が6層にわたって堆積しているが、植物や炭化物、礫などを含む層はなく、遺構・遺物とも一切検出されなかつた。

調査後の措置 平成12年6月8日、都市計画法第32条にかかる開発行為事前協議書を事業者より受理した市都市開発課は、7月6日に市の関係各課によって構成される開発行為協議会を開催した。歴文課は確認調査の結果、当該地は遺跡とは認められなかつたと、口頭及び文書（平成12年7月13日付け）で回答した。

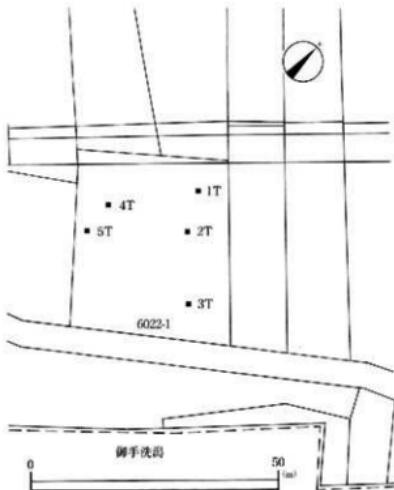


図13 試掘坑配置図 ($S=1/1,000$)

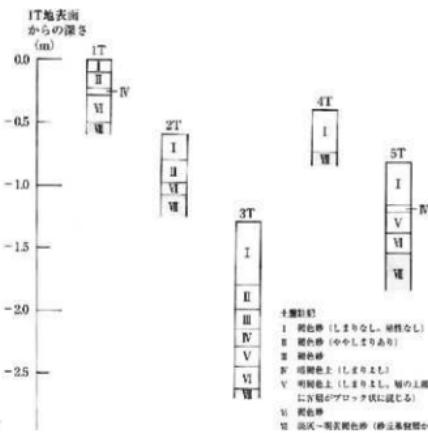
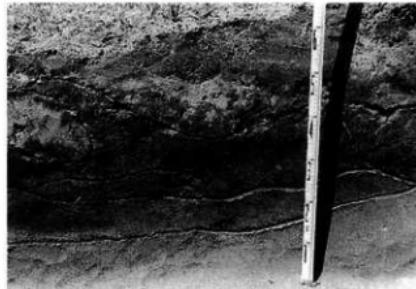


図14 土層柱状図 (深度方向のみ $S=1/40$)



調査地全景（北から）



1T 土層堆積状況



2T 土層堆積状況



3T 土層堆積状況

VII 猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市猿ヶ馬場1丁目174番11ほか

調査期間：6月22日本

調査面積：調査対象面積66.0m² 調査面積6.0m²（調査対象面積の約9%）

調査担当：廣野耕造

1 遺跡の概要

立地ほか 猿ヶ馬場A遺跡は石山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-2列に対比される）の南斜面に立地する。昭和9（1934）年には弥生土器・須恵器などを少量出土する遺跡として言及され（高山1934）、その後、石山閉地造成中に須恵器片・土師器片などが出土したという記録がある（新潟市合併町村史編集室1986）。遺物の散布状況等からAとBの2遺跡に分かれており、出土遺物から見ると弥生時代・奈良・平安時代及び中世にかかる複合遺跡と推定されるが、周辺が宅地化されてしまったため、詳細については不明の部分が多い。現在周知化されている面積は約5,600m²である。

主な既往の調査 周辺での開発に対応し、平成9（1997）年度、平成10（1998）年度及び平成11（1999）年度に範囲確認調査が実施されている（朝岡1998・1999・2000）。平成11（1999）年度の調査でわずかに中世から近世の陶器片や近世の遺構が検出されたほかは、遺構・遺物は確認されていない。

2 調査に至る経緯

協議 平成12（2000）年3月、新潟市内の民間業者が事務所を建設するにあたり、その用地内の遺跡の有無について新潟市に照会し、猿ヶ馬場A遺跡の範囲内にかかることが判明した。市は業者に法57条の2に係る発掘届の提出を依頼した。

届出など 業者は市教委を経由して法57条の2に係る発掘届を県教委に提出（平成12年6月16日付け）、埋文センターは範囲確認調査の実施は避けられないと判断し、県教委の指示を得たうえで法58条の2に係る発掘通知を提出した（平成12年6月19日付け）。県教委からは確認調査を実施するよう書面で指示があった（平成12年6月28日付け）。

3 調査の経過

調査方法 事業予定地内に1.5m×5.0mの試掘坑を1本設定し（図16）、0.15m級のバックホーを用いて一回に10~20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。



調査結果 土層については、基盤砂層（礫層）の上に砂・粘土・シルトが交互に堆積するという状況であった（図17）。遺物・遺構は一切検出されなかった。

調査後の措置 今回の調査では遺構・遺物ともに検出されなかったため、遺跡の保護上特に問題はないと考えられると市教委から県教委に報告した（平成12年7月10日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては慎重に実施するよう、書面で通知された（平成12年7月19日付け）。

図15 調査地周辺図 (S=1/2,500)



図16 試掘坑配置図 ($S=1/100$)

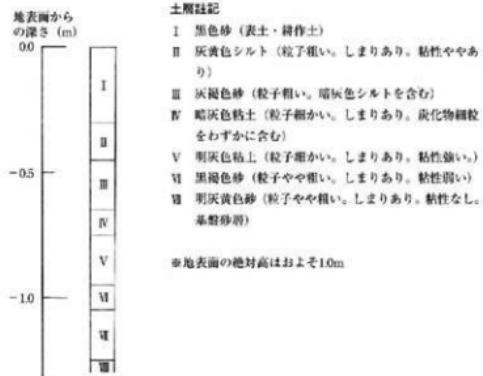


図17 土層柱状図 ($S=1/20$)



調査地全景（東から）



試掘坑 調査終了状況



試掘坑 土層堆積状況

Ⅲ 丸山遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市若荷谷字才植山1419番2ほか

調査期間：7月6日(木)

調査面積：調査対象面積500.0m² 調査面積21.6m² (調査対象面積の約4.3%)

調査担当：廣野耕造

1 遺跡の概要

立地ほか 丸山遺跡は亀田砂丘後列の砂丘列が南へ舌状に張り出した部分に立地している。昭和36(1961)年には土器が拾われたとの報告がある(山田1961)。しかし、昭和45(1970)年ころの砂取りで遺跡の立地する砂丘は削平されたとされている(新潟市史編さん原始古代中世史部会1994)。詳細については不明だが、土地改良事業に係る暗渠排水路工事中、須恵器や土師器が出土したという(酒井・坂井ほか1987)。現在周知化されている面積は約41,000m²である。

主な既往の調査 平成元(1989)年には道路拡張に伴って分布調査が実施され、特に問題なしとして調査後工事に着手している(新潟市教育委員会1990、藤塚1991)。平成3(1991)年には団地造成、平成4(1992)年には小学校体育館建設などを原因として分布調査や試掘調査が実施されているが、遺構や遺物は確認されていない(新潟市教育委員会1993)。平成5(1993)年にも分布調査が実施されたが遺物は採集されていない(新潟市教育委員会1994)。

2 調査に至る経緯

協議 新潟市に対し個人住宅建設請負業者から当該地における遺跡の有無について照会があり、遺跡にかかっていることが判明した。市は業者を通じて施工主に法57条の2に係る発掘届の提出を依頼した。

調査 業者は市教委を経由して法57条の2に係る発掘届を県教委に提出(平成12年6月14日付け)、一方、市は範囲確認調査の実施は避けないと判断し、県教委の指示を得たず市教委から法58条の2に係る発掘通知をあわせて提出した(平成12年6月19日付け)。県教委は遺跡の範囲が不明であるとして範囲確認調査の実施を新潟市教育長に文書で指示した(平成12年6月28日付け)。

3 調査の経過

調査方法 事業予定地内に1.2m×12.0m及び1.2m×6.0mの試掘坑を直行するように各1本設定した(図19)。0.15m級のバックホーを用いて一回に10~20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努め、掘り下げ深度は基盤層が露出するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 土層については、基盤砂層(Ⅱ層)の上に20cm程度の表砂が堆積するという状況であった(図20)。遺物・遺構は一切検出されなかった。

調査後の措置 今回の調査地では遺構・遺物とともに検出されなかっただため、遺跡の保護上特に問題はないとの考えを市教委から県教委に報告した(平成12年7月21日付け)。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては市教委の職員を立ち会わせるよう、書面で通知された(平成12年8月2日付け)。

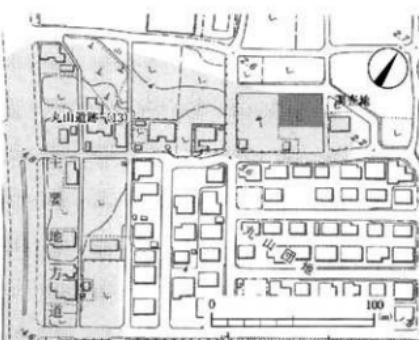


図18 調査地周辺図 (S=1/3,000)

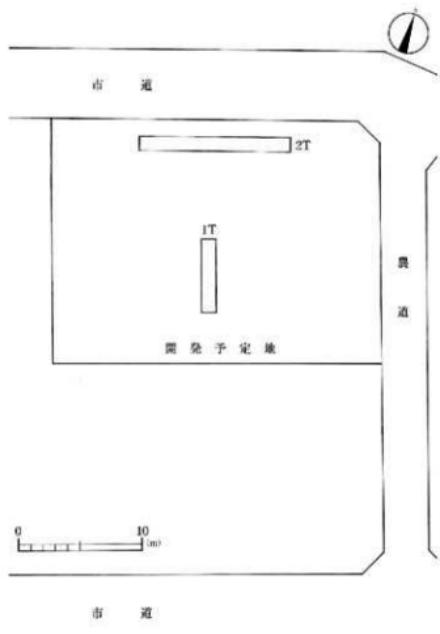
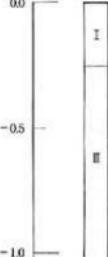


図19 試掘坑配置図 ($S = 1/400$)

地表面から
の深さ (m)



土層記

I 脳灰黄色砂（植物を多く含む）
II 明灰黄色砂（基盤砂層）

図20 土層柱状図（深度方向のみ $S = 1/20$ ）



調査地全景（北から）



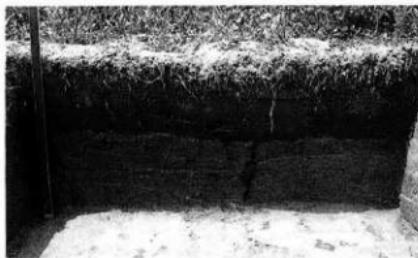
1T 土層堆積状況



1T 調査終了状況



2T 調査終了状況



2T 土層堆積状況

IX 海老ヶ瀬地区試掘調査

調査地：新潟市海老ヶ瀬字長田444番1ほか

調査期間：8月8日㈬・9日㈭

調査面積：調査対象面積25,037.4m² 調査面積54.0m²（調査対象面積の約0.2%）

調査担当：廣野耕造

1 調査地の概要

立地ほか 調査地は新砂丘Ⅱの後背低地であり、現地表面でも標高-0.3mと著しく低い。南東へ約600m地点に石動遺跡（市道跡番号85）があるほかは周辺に周知の遺跡はみられない。

2 調査に至る経緯

協議 民間の自動車学校より市教委に対し、当該地に移転を予定しているので、遺跡の有無について調査してほしいとの依頼が文書であった（平成12年7月10日付け）。

届出など 上記の依頼を受け、試掘調査を実施するため法58条の2による発掘通知を市教委から県教委に提出した（平成12年7月27日付け）。

3 調査の経過

調査方法 事業予定地内に1.8m×2.0mを基本とする試掘坑を15ヶ所設定した（図22）。0.4m級のバックホーを用いて一回に10~20cmづつ上層を掘り下げながら遺構・遺物等の有無の確認に努め、掘り下げ深度は基盤層が露出するまで、ないし2.0mを限界とした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 上層については、基盤層が検出できず、低湿地に堆積した粘土層やシルト層の検出にとどまった（図23）。遺物・遺構は一切検出されなかった。

調査後の措置 今回の調査地では遺構・遺物ともに検出されなかったため、遺跡の保護上特に問題はないとの考えを市教委から県教委に報告した（平成12年9月18日付け）。工事は年度内に着工されている。



図21 調査地周辺図 (S=1/10,000)

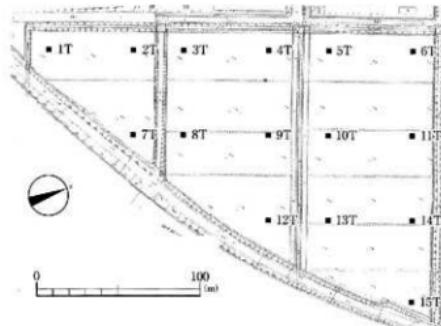


図22 試掘坑配置図 (S=1/3,000)

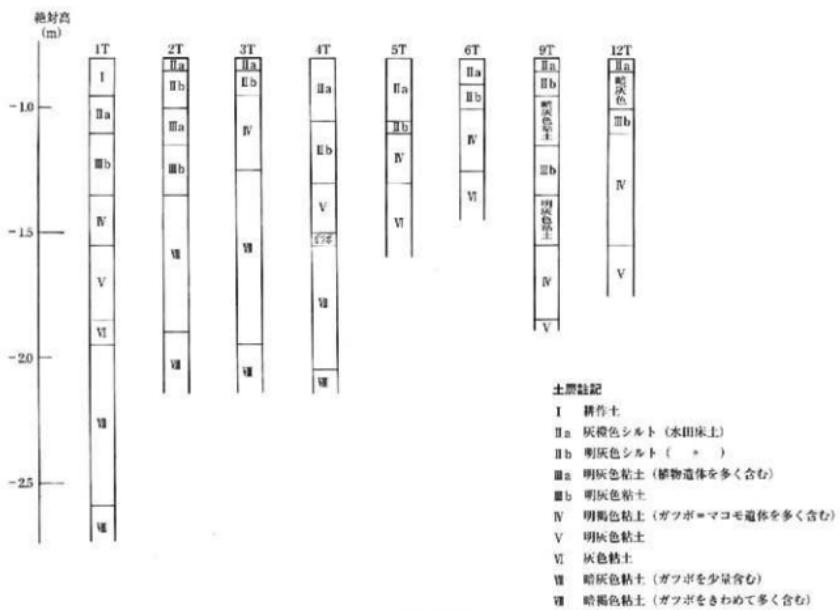


図23 土層柱状図(深度方向のみ $S = 1/20$)



調査地全景(北から)



1T 土層堆積状況



6T 土層堆積状況



12T 土層堆積状況

X 清水が丘遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市丸山ノ内善之丞組字宮前77番地1ほか

調査期間：8月23日㈬

調査面積：調査対象面積231.0m² 調査面積21.0m²（調査対象面積の約9%）

調査担当：廣野耕造

1 遺跡の概要

立地ほか 清水が丘遺跡は亀田砂丘後列の砂丘列南斜面に立地する。昭和60（1985）年の分布調査によって発見されたが、少量の土器片が認められたのみであり、範囲等詳細は明確ではない。

2 調査に至る経緯

協議 平成12（2000）年7月、清水が丘遺跡に係る土地における農地法第4条の規定による許可申請書（いわゆる農地転用）が提出されたとの連絡が新潟市農業委員会事務局より歴史文化課にあった。これを受けて、代理人をとおして申請者と協議した結果、当該地に個人住宅を建てる予定であること、農地転用が許可され次第着手したい意向であることがわかった。市では申請者に対し、当該地が清水が丘遺跡の隣接地であるため、法57条の2による発掘届について提出を依頼した。

届出など 農地転用申請者は市教委を経由して上記の発掘届を県教委に提出（平成12年7月21日付け）、県教委から市教委に対して遺跡の範囲が不明確なので確認調査をするようにとの通知があり（平成12年8月7日付け）、これを受けて市教委から法58条の2に係る発掘調査の報告を県教委に送付し（平成12年8月17日付け）、調査に着手することになった。

3 調査の経過

調査方法 南北方向に細長い形状を呈する調査地の主軸にはほぼ平行する形で1.2m×12.5mの試掘坑を設定した（図25）。0.15m級のバックホーを用いて一回に10~20cmづつ上層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 基盤層は粒度の細かい灰黄色砂であり、調査地が砂丘の南側端部に立地していることをうかがわせる。基盤層の上に各種の土壤が堆積し、最上層は現在の耕作土であった（図26）。ただし、IV層は粘土であるため、この地が一時冠水した可能性もあると考えられる。

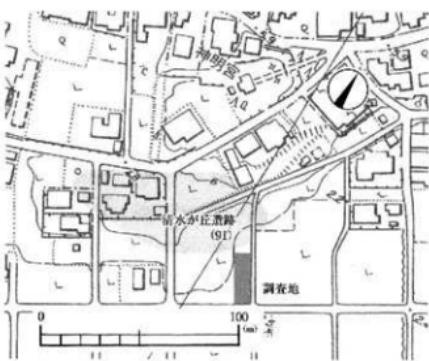


図24 調査地周辺図 (S=1/2,500)

遺物はII層から近世陶器片が数点出土したのみである。

遺構は検出されなかった。

調査後の措置 市教委は今回の調査地を遺跡の範囲外であるとし、県教委に報告した（平成12年9月16日付け）。それを受けて、県教委から事業者宛に工事にあたっては支障ないと通知された（平成12年9月28日付け）。

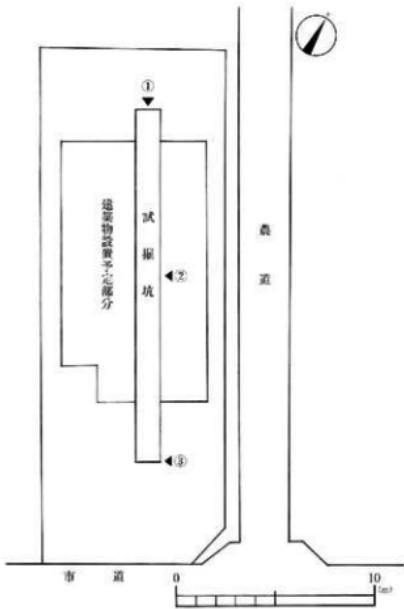


図25 試掘坑配置図 ($S=1/250$)

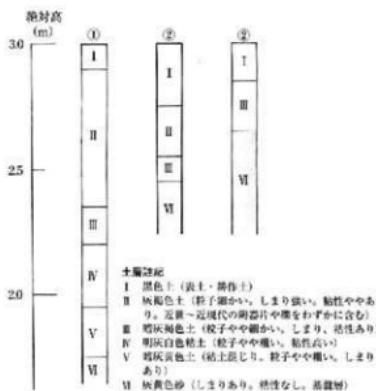


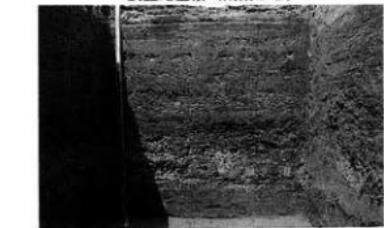
図26 土層柱状図 (深度方向のみ $S=1/20$)



調査地全景 (南東から)



試掘坑 調査終了状況



試掘坑 土層堆積状況①



試掘坑 土層堆積状況②



試掘坑 土層堆積状況③

XI 溜池遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市河渡字庚338ほか

調査期間：8月24日(木)・25日(金)・28日(月)～30日(水)

調査面積：調査対象面積127,900.0m² 調査面積294.0m² (調査対象面積の約0.2%)

調査担当：廣野耕造

1 遺跡の概要

立地ほか 溜池遺跡は新砂丘Ⅲに該当する物見山砂丘最前列に立地する。昭和10(1935)年には金塚友之丞氏による「堀池(かつて大堀が埋めてあったという伝承がある)」についての記載がある(金塚1935)が、この池と溜池遺跡との関係は現在不明である。

主な既往の調査 平成7(1995)年、民間の事務所建設に先立つ範囲確認調査を市教委が実施したが、遺構・遺物とも確認されていない(新潟市教育委員会1996)。

2 調査に至る経緯

協議 市は平成11(1999)年度中より、当該地における大規模店舗開発に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて、民間業者と協議してきた。開発予定地の一部が溜池遺跡の隣接地であり、宮浦遺跡(市遺跡番号35)にも近いことから、市としてはこの業者に法57条の2に係る発掘届の提出を依頼した。また、遺跡に隣接していない部分についても、遺跡の有無について調べるために、試掘調査を実施することとした。

届出など 業者は市教委を経由して上記の発掘届を県教委に提出(平成12年7月4日付け)、県教委からは市教委に対し遺跡の範囲が不明確なので確認調査をするようにとの通知があった(平成12年7月19日付け)。これを受け市教委から法58条の2に係る発掘調査の報告を県教委に送付し(平成12年8月15日付け)、調査に着手することとなった。

3 調査の経過

調査方法 溜池遺跡の隣接地付近にはやや密にする形で、事業予定地内に2.0m×3.0mの試掘坑を49本設定した(図28)。0.25m級のパックホーを用いて一回に10~20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまで、ないし深度2.0mとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 調査前、地権者への説明をかねて実施した聞き取りでは、付近一帯はかつて低湿地で、耕作等には利用不可

能な土地であり、現在のような状態にするため場所によっては2m以上も土や砂を盛っているとのことであった。調査結果でも概ねそのとおりの知見が得られている。一部の試掘坑で明灰色砂層が検出されてこれが基盤層であろうと考えられるが、ほとんどの試掘坑ではそこまで到達できなかった。基盤層の上に堆積している明青灰色シルトや暗緑灰色粘土は、擾乱の痕跡もなく、またシルトや砂には水成層特有のラミナが観察されることから、これららが本来の自然層であると考えられる(図29)。

遺物・遺構については、試掘坑12Tにて近世陶器片1点を作う溝状構が検出されている。

調査後の措置 今回の調査地では、溜池遺跡や宮浦遺跡の広がりが確認されなかつたため、遺跡の範囲外である



図27 調査地周辺図 (S=1/25,000)

との考え方を市教委から県教委に報告した(平成12年9月29日付け)。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては慎重に実施するよう書面で通知された(平成12年10月20日付け)。なお、近世の遺構・遺物が検出された12T周辺については、事業者に対して破壊しないような方法で開発するよう、市から申し入れを行っている。



図28 試掘坑配置図 ($S=1/5,000$)

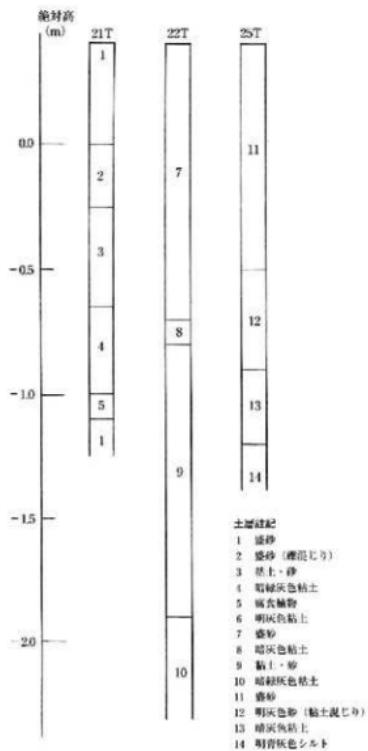


図29 土層柱状図 (深度方向のみ $S=1/20$)



調査地全景（北東から）



10T 遺構及び遺物検出状況(1)



10T 遺構及び遺物検出状況(2)

XII 姥ヶ山地区試掘調査

調査地：新潟市姥ヶ山字大日南田45番地1ほか

調査期間：10月25日(水)～27日(金)・30日(月)～11月2日(木)

調査面積：調査対象面積131,300.0m² 調査面積234.0m² (調査対象面積の約0.2%)

調査担当：廣野耕造

1 調査地の概要

立地ほか 調査地は新砂丘I（亀田砂丘）とII（石山砂丘）の間に広がる沖積地であり、現地表面の標高が-1.5m～-0.5mという低地で、調査前の現況は水田である。いわゆる亀田郷のはば中心地で、その最も低湿な部分にあたる。新砂丘IIからは南へ約0.6km、1からは北西へ約3.0km離れている。周囲1kmの範囲内にある遺跡は、石仏山（石仏。中世の遺跡か。市道跡番号80）のみである。なお、調査地に隣接し、南側に日本海沿岸自動車道（日沿道）、東側に国道49号線バイパスが走っている。

2 調査に至る経緯

協議 平成11（1999）年度中から数回にわたって、当該地に大規模店舗建設を予定する業者と市とで協議を重ねた。周知の遺跡はかかっていないが、似たような条件にある市内若荷谷の沖積地から東側遺跡が新発見されたことを重視、また県教委の助言も得た上で、事業者の了解を得て試掘調査を実施することになった。

届出など 事業者より埋蔵文化財の所在状況について調査依頼が提出された（平成12年9月21日付け）のを受け、市教委は法58条の2による発掘調査の通知を県教委に提出した。

3 調査の経過

調査方法 2.0m×3.0mの試掘坑を39ヶ所、調査対象地全域に均等に配置した（図31）。当初の予定ではさらに多くの試掘坑を調査する予定であったが、極めて軟弱な地盤のため掘削用のバックホー（0.4m³級）が入れないなどの理由で間引いた試掘坑も少なくない。バックホーを用いて一回に10～20cmづつ上層を掘り下げ、造構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでか深度20mに達するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

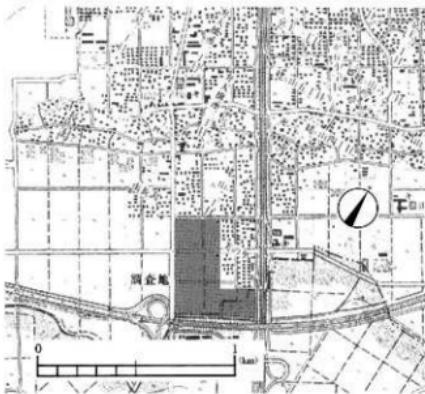


図30 調査地周辺図 (S=1/25,000)

調査結果 全ての試掘坑でIV層すなわち腐食植物層（マコモ類の堆積したもの。地元の言葉でガツボと呼んでいるもの）が検出され、調査地の全域にわたってかつてはマコモ類の繁茂する低湿地であったことが知られる。一部の試掘坑では最下底で灰色砂が検出されており、これが基盤層と考えられる。この層の上にシルトと粘土が互層になっているのが観察された。掘削可能な範囲の深度で基盤層が検出された試掘坑は調査区の南側に集中していることから、砂層堆積当時の古地形は南側に向かって高くなっていたことが推定される（図32）。

遺物は試掘坑28TのIV層直上から近世陶器片2点が出土したのみである。造構は検出されなかった。

調査後の措置 市教委は今回の調査地は遺跡と認められないし、県教委に報告した（平成12年12月11日付け）。

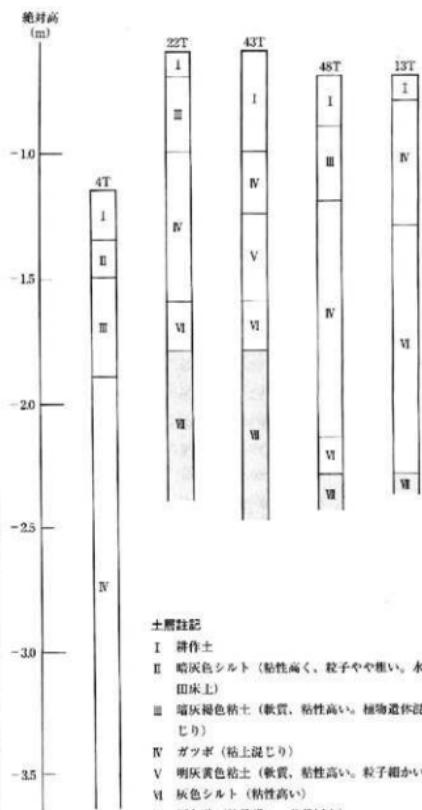


図32 土層柱状図（深度方向のみ S=1/20）



Ⅲ 内野西土地区画整理事業関連試掘・確認調査

調査地：新潟市五十嵐下崎山199ほか

調査期間：平成13（2001）年2月21日（水）～23日（金）・26日（月）

調査面積：調査対象面積24,320.0m² 調査面積162.0m²（調査対象面積の約0.7%）

調査担当：横野耕造

1 調査地の概要

立地ほか 調査地は新砂丘II-c列の南斜面に接する沖積地で、現況はほとんどが水田、一部が畠となっている。現地表面の標高は砂丘地の縁辺部で0.5m～1.5m、砂丘地から南へ離れた内陸部分で0.6m～0.7mを測る。周辺の遺跡についてみると、調査地の北部が内野潟端B遺跡（中世の遺跡。市遺跡番号101）に隣接、また調査地の東端から東へ約0.2kmには六地山遺跡（弥生時代を中心とする遺跡。残丘状の砂丘列上に立地。市遺跡番号3）推定範囲の西端部が及んでいる。

なお、内野潟端B遺跡は昭和60（1985）年に市教委の実施した分布調査で珠洲焼が採集されたことにより発見されたが、範囲等詳細は不明である（新潟市史編さん原始古代中世史部会1994）。

2 調査に至る経緯

協議 平成11（1999）年に市教委が実施した平成12年度以降の開発計画に関する照会に対し、市都市整備局都市開発部都市開発課より「内野西土地区画整理事業」について回答が寄せられ、同課担当者と頃文センター担当者との間で協議を開始した。その結果、事業予定地の一部は内野潟端B遺跡の隣接地であるため、土地区画整理組合設立の目途が立った時点で法57条の2による発掘通知を提出し県教委からの指示に従うこと、その指示は確認調査をするということになる公算が高いので、調査時期について事業スケジュールの中に組み入れて考えておく必要があること、組合設立間近にならば再協議すること、以上の3点について確認し、合意をみた。その後、平成12（2000）年10月に至り、都市開発課担当者より組合設立の目途が立ったとの知らせがあり再協議を開始した。その結果、組合側より、資金調達の関係上、組合設立直後に一部の工事を急ぎ開始せざるを得ず、その部分についてだけでも試掘調査を急いでもらいたいとの要望があった。年度末が遅り関係予算が乏しい時期ではあったが、前倒し着工分についてのみ調査を実施することとなった。

届出など 事業者より法57条の2による発掘届が市教委経由で県教委に提出（平成12年12月8日付け）され、県教委より市教委に対し確認調査の指示があった（平成12年12月22日付け）ため、市教委から法58条の2による発掘調査の通知を県教委に送付（平成12年2月20日付け）し、調査を実施することになった。

3 調査の経過

調査方法 平成12（2000）年度施工分を調査対象地とし、それが3ヶ所に分散しているため便宜上A、B、Cと呼称した（図34）。2.0m×3.0mの試掘坑を、調査区Aには20m間隔を基本として5ヶ所、調査区Bは内野潟端B遺跡の隣接地なのでやや密に10m間隔を基本として8ヶ所、調査区Cには20m間隔を基本として14ヶ所設定し、調査した（図35～37）。当初の予定ではさらに多くの試掘坑を調査する予定であったが、表土が極めて軟弱であるなどの理由でバックホー（0.4m級）が行動不能となり、やむを得ず掘削を断念した試掘坑もある。バックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を振り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。振り下げ深度は基盤層が露出するまでか深度2.0mに達するまでとした。ただし後世の盛土等が厚



図33 調査地周辺図 (S=1/50,000)

い地点の場合、いったん旧地表面まで掘り下げてから試掘坑を設定した部分もあり、こうした場所では現地表面から2.0m以上掘り下げている。掘削終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

調査結果 極めて広い範囲での調査であったが、土層の堆積状況は齊一性が高く、場所による層序の違いはほとんどみられなかった。表土及び耕作土が粘土であるほかは、シルトを主体とする構成であったため、試掘坑は掘削終了直後から速やかに崩壊をはじめ、精査や記録作成に非常な困難を來した。多くの試掘坑で基盤砂層（IV層）が確認されている（図38～40）。市内の沖積地でよくみられるいわゆるガツボが、ここではほとんど検出されなかった。当該地一帯が、かつてマコモ類も生育できない程度の、かなりの深さで冠水していた可能性も考えられる。

遺物は全く検出されなかった。遺構も同様である。

調査後の措置 市教委は今回の調査地は遺跡と認められないとして、県教委に報告した（平成13年3月12日付け）。



図34 調査区A・B・C位置図 (S=1/5,000)



図35 調査区A 試掘坑配置図
(S=1/2,000)

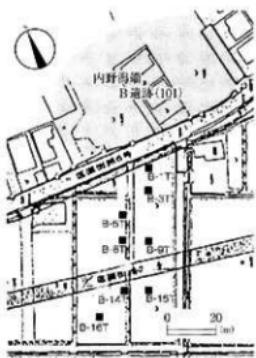


図36 調査区B 試掘坑配置図
(S=1/2,000)

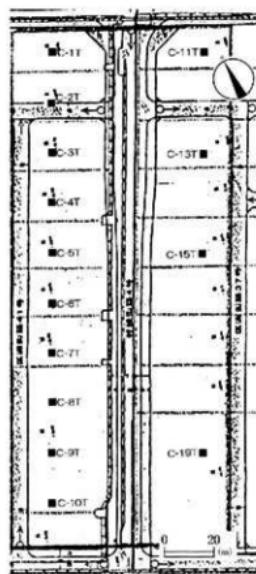


図37 調査区C 試掘坑配置図
(S=1/2,000)

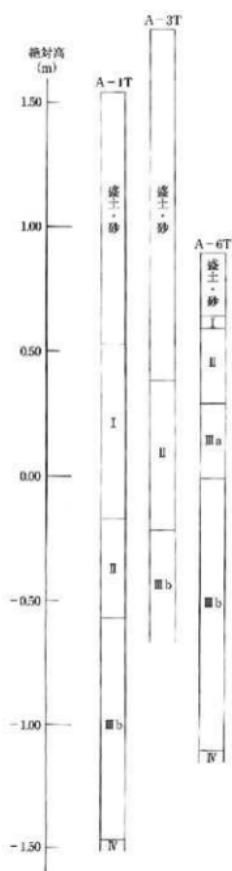


図38 調査区A 土層柱状図
(深度方向のみ S=1/20)

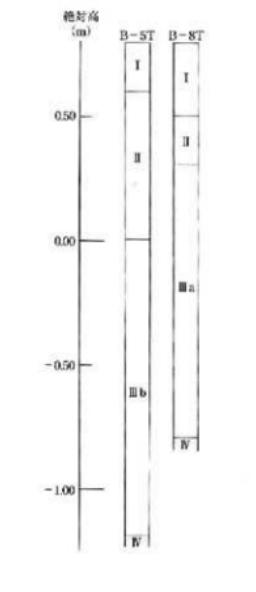


図39 調査区B 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



調査区A 全景（南から）



A-1T 調査終了状況



A-3T 調査終了状況



A-6T 調査終了状況



調査区B 全景（東から）



B-5T 調査終了状況



B-8T 土層堆積状況



B-14T 調査終了状況

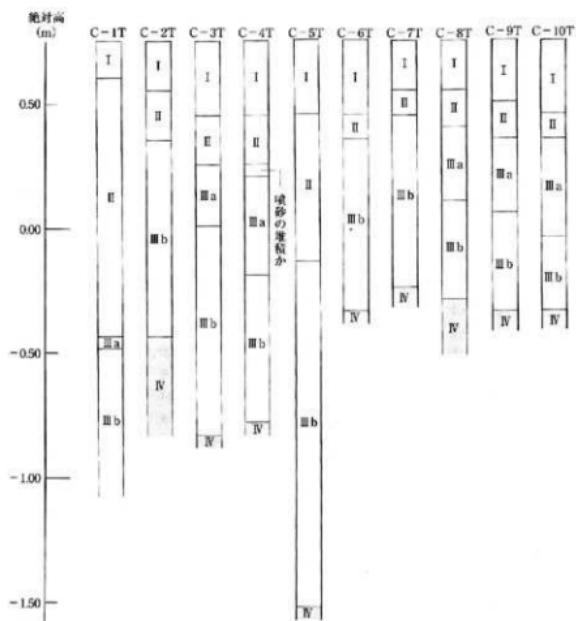


図40 調査区C 土層柱状図（深度方向のみS=1/20 土層記は30頁を参照）



調査区C 全景（北東から）



C-1T 土層堆積状況



C-5T 調査終了状況



C-10T 調査終了状況

引用・参考文献

- 畠山佑二 1934 「蒲原平野の土器石器について」『初等教育』6月号 新潟師範附属小学校
- 金塚友之丞 1935 「康平園・寛治園偽作論(下)」『高志路』8 高志社
- 上原甲子郎 1956 「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」「弥彦角田山周辺総合調査報告書」 新潟県教育委員会
- 山田武雄 1961 「亀田砂丘における土器と花粉分析について」『新潟県地学教育研究会誌』2 新潟県地学教育研究会
- 新潟市教育委員会社会教育課 1983 「埋蔵文化財調査」『昭和57年度 新潟市文化財調査概要』
- 新潟市合併町村史編集室 1986 「新潟市合併町村の歴史」4中蒲原郡から合併した町村の歴史 新潟市
- 酒井和男・酒井陽一ほか 1987 「大江山地区の遺跡」 新潟市教育委員会
- 岡雅之 1988 「畠山佑二コレクション」「豊榮市史」資料編1 豊榮市
- 新潟市史編さん自然部会 1991 「新潟市史」資料編12自然 新潟市
- 藤塚明 1991 「1.1989年度調査概要」「1989年度埋蔵文化財発掘調査報告書」 新潟市教育委員会
- 新潟市教育委員会 1992 「1990年度埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 新潟市教育委員会 1993 「平成3・4年度埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 新潟市教育委員会 1994 「平成5年度埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 「新潟市史」資料編1 原始古代中世 新潟市
- 新潟市教育委員会 1996 「平成7年度埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 新潟市教育委員会 1998 「平成9年度埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 新潟市教育委員会 1999 「平成10年度埋蔵文化財発掘調査報告書」
- 新潟市教育委員会・新潟市 2000 「平成11年度埋蔵文化財発掘調査報告書」

平成12年度埋蔵文化財 発掘調査報告書

発行日 平成13年3月30日
発行 新潟市教育委員会
新潟市
新潟市学校町通1番町602番地1
〒951-8550 電話 (025)228-1000
印刷 (有)太陽印刷所
新潟市和合町2丁目4番18号
〒950-0985 電話 (025)382-7651

報告書抄録

ふりがな	へいせいじねんどまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ							
書名	平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	旗野耕造							
編集機関	新潟市埋蔵文化財センター							
所在地	〒951-3101 新潟県新潟市太郎代2554番地							
発行機関	新潟市教育委員会・新潟市		発行年月日		西暦2001年3月31日			
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 度	東経 度	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
まつやまじゆせき 松山遺跡	新潟県新潟市松山字道上	15201	110		20000317	22	個人住宅建設	
まつやまとこうじゆせき 明徳高校移転予定地	新潟県新潟市東城		37度 52分 36秒	139度 07分 05秒	20000417~20000420 20000424~20000427	550	学校建設	
とうじゆせき 東園遺跡	新潟県新潟市若谷字東園		114	37度 53分 52秒	139度 07分 54秒	20000425~20001222	8,875	市道建設
まつやまとこうじゆせき 御苑市場建設予定地	新潟県新潟市丸山の内 寺之塚字御苑		37度 52分 52秒	139度 07分 39秒		68	卸売市場建設	
まつやまとじゆせき 赤堀神社遺跡	新潟県新潟市坂井字荒所		27	37度 49分 14秒	139度 52分 53秒	20000615	15	工場建設
まつやまとじゆせき 猿ヶ馬場A遺跡	新潟県新潟市猿ヶ馬場1丁目		15	37度 54分 12秒	139度 07分 04秒	20000622	6	事務所建設
まつやまとじゆせき 丸山遺跡	新潟県新潟市丸山字前郷		13	37度 52分 33秒	139度 08分 05秒	20000706	22	事務所建設
まつやまとじゆせき 海老ヶ瀬地区	新潟県新潟市海老ヶ瀬字長田			37度 55分 15秒	139度 07分 56秒	20000808~20000809	54	学校建設
まつやまとじゆせき 清水が丘遺跡	新潟県新潟市丸山字清水が丘		91	37度 52分 26秒	139度 07分 52秒	20000823	21	個人住宅建設
まつやまとじゆせき 溜池遺跡	新潟県新潟市河溜本町		36	37度 55分 49秒	139度 06分 37秒	20000824~20000825~ 20000826~20000830	294	店舗建設
まつやまとじゆせき 越ヶ山地区	新潟県新潟市坂井字大日南田			37度 52分 43秒	139度 41分 50秒	20001025~20001027 20001030~20001102	234	店舗建設
まつやまとじゆせき 内野湯端B遺跡	新潟県新潟市内野町		101	37度 50分 45秒	138度 55分 59秒	20010221~20010223~ 20010226	162	区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
まつやまじゆせき 松山遺跡	包含地	中世						
まつやまとこうじゆせき 明徳高校移転予定地					縄文土器片、近世の漆器			
とうじゆせき 東園遺跡	集落跡	绳文・弥生・古墳	古墳時代前期の壘穴住居・壠立柱建物・土坑・ピットなど		縄文土器・弥生土器・古墳時代前期の土師器・木製品・鉄滓・石製品・黒色化米・種実類など			
まつやまとじゆせき 御苑市場建設予定地								
まつやまとじゆせき 赤堀神社遺跡	包含地	平安						
まつやまとじゆせき 猿ヶ馬場A遺跡	散布地	平安・室町						
まつやまとじゆせき 丸山遺跡	包含地	平安						
まつやまとじゆせき 海老ヶ瀬地区								
まつやまとじゆせき 清水が丘遺跡	包含地	平安			近世陶器片			
まつやまとじゆせき 溜池遺跡	包含地	平安	近世の溝状遺構		近世陶器片			
まつやまとじゆせき 越ヶ山地区					近世陶器片			
まつやまとじゆせき 内野湯端B遺跡	包含地	中世						

平成 12 年度埋蔵文化財発掘調査報告書 正誤表

頁	行	(誤)	(正)
4	12	(朝岡 1999)	(新潟市教育委員会 1999)
10	14	(朝岡 2000)	(新潟市・新潟市教育委員会 2000)
16	13	(朝岡 1998・1999・2000)	(新潟市教育委員会 1998・1999、新潟市・新潟市教育委員会 2000)